

火災

地震の後や、日頃の火の取り扱いに注意しましょう。



火災発生時とるべき行動

- ・大きな声で叫び、まわりに知らせる。通報する
- ・火が大きくなる前に、初期消火する
- ・危険を感じたらすぐに避難する

消火方法の違い

① 石油ストーブ

消火器は手前から奥へ掃くように噴射。消火器がない場合は、濡らしたシーツや毛布を軽く絞り、手前からすべらすようにかぶせ、空気を遮断しましょう。

② 電気機器

コンセントを抜く、ブレーカーを切る等、電気を遮断したうえで消火しましょう。水系消火器は感電の恐れがあります。

③ カーテン・ふすま・障子

上に燃え広がる前の対処が重要です。カーテンは引きちぎり、ふすまや障子は足でけるなど倒してから消火しましょう。

④ コンロ(天ぷら油)

油鍋に水をかけるのは厳禁。消火器は手前から奥へ掃くように噴射します。消火器がない場合は、濡らしたシーツや毛布を軽く絞り、手前からすべらすようにかぶせ、空気を遮断しましょう。

⑤ たき火

消火器や水で消火しましょう。水の準備がない場合は、ほうきや木などでたたいて消し、その後、水でしっかり消火しましょう。
※野外での焼却は、一部を除き法律で禁止されています。

消火器の使い方



もしも服に火がついたら...

① 止まる(ストップ)

火が衣服についたまま走ると、風が起こって火の回りを早めてしまうため、決してあわてて走らないように注意してください。

② 倒れる(ドロップ)

地面に向かって体を倒します。このとき、燃えている部分を地面に押しつけるようにしてください。

③ 転がる(ロール)

地面に体を倒したまま、右へ左へと転がってください。ちっ息消火で、火を消し止めます。

つけましたか？

住宅用火災警報器



住宅用火災警報器は、なぜ必要なの？

住宅火災で亡くなられた方の多くは「逃げ遅れ」が原因です。火災から大切な生命を守るために1日も早く設置をしましょう。火災を早期に発見することで、初期消火や通報が早まり被害の軽減につながります。

設置した後はお手入れもお忘れなく。

- 定期的に作動するか確認しましょう(月に1回が目安)。
- 乾電池タイプは交換を忘れずに(機種によっては5年から10年が目安です)。
- 機器の交換が必要です(住宅用火災警報器の寿命はおおむね10年とされています。詳しくは、購入時の取扱説明書を確認してください)。

住宅用火災警報器がなったらどうすればいい？

火元を確認し、すぐに避難して大きな声で助けを求めましょう。119番通報し、可能であれば初期消火を行ってください。

お問い合わせ

枚方消防署 ☎852-9933

枚方東消防署 ☎852-9999

寝屋川消防署 ☎852-9966

Try!

火災を予防しよう！



1 天ぷらをあげるときは、その場を離れない

食用油は350℃程度になると発火します。その場を離れるときは、必ず火を止めましょう。

2 寝たばこ・たばこの投げ捨ては厳禁



決められた場所以外で吸わず、完全に火を消せるよう灰皿に水を入れておきましょう。

3 風の強いときに、たき火をしない



水を入れたバケツを用意し、絶対に離れないようにしましょう。

4 家のまわりに燃えやすいものを置かない

新聞・雑誌、ごみなどは放火の的にもなります。車庫・物置の戸締めまりもしっかりとしましょう。

5 マッチやライターで子どもを遊ばせない



子どもに火の正しい使い方や怖さを教え、子どもの手の届く場所にはマッチやライターを置かないようにしましょう。

6 ストープには燃えやすいものを近づけない

カーテンや洗濯物などを近づけないようにしましょう。給油は火を消してから行きましょう。

7 電気器具は正しく使い、たこ足配線はしない

使用説明書などをよく読み正しい使い方を心がけましょう。使用後はプラグを抜いてください。

8 寝る前に必ず火元を確かめる

ガスコンロの元栓など点検項目のメモを貼っておき、ひとつずつ確認するなどしましょう。

9 高齢者の部屋は1階に

万一の場合、避難しやすくなります。枕元やトイレにホイッスル(呼び笛)を用意しましょう。

10 消火の備えを万全に



消火器を備える、住宅用火災警報器を設置する、風呂の水を置いておくなどして備えましょう。

119番通報

「火災か救急か」「場所」「火災・事故の状況」「通報者の氏名、連絡先」の4ポイントを主に聞かれます。あわてず、落ち着いて係員の質問に答えましょう。